てくてく情報

2024年12月号【古河公方公園】
●のんびりてくてく、お散歩してみませんか

●冬枯れの静寂と澄んだ空気に包まれる癒しの散歩道

●「つわものどもの夢のあと」公園に残る古河公方の足跡

公園の愛称にちなむ「古河公方」について、その歴史と足跡をご紹介します。室町時代の 1454 年に、鎌倉公方であった足利成氏（初代：古河公方）は、数々の因縁から関東管領の上杉憲忠を誅殺し「享徳の乱」が始まりました。鎌倉から古河に座を移し、約 30 年間に渡り上杉氏（幕府方）と戦います。そして、幕府方との対立は、都鄙和睦（とひわぼく、1483 年））により和睦することになります。その後、時代は変わり、敵であった上杉氏と手を結んで、北条氏と対立するなどしましたが、五代目の足利義氏の頃には、権勢を失ってしまいます。その娘、氏姫は、秀吉の命により、古河公方男系の流れをくむ小弓公方の孫と結婚し、その子孫は喜連川氏へと続いていくことになります。しかし氏姫は、館のあった場所である①公方様の森、生涯（1620 年没）住み続けました。その義氏と氏姫の葬られた場所は、公園内の史跡②徳源院跡になります。

③公方様の森の
古河公方館碑

古河公方とその系譜

初代：成氏
二代：政氏
三代：高基　　義明
四代：晴氏　　（小弓公方）
五代：義氏　　：
娘：氏姫…国朝、頼氏
：
喜連川氏へ

●公園名所案内　「ランドスケープデザイン」開かれた空間

澄み渡る空気、葉が落ち見通しのいい森。冬は公園の景色を楽しむのにいい季節です。公方公園は、歴史的背景と自然環境を調和させたランドスケープデザインが特徴です。公園内の近景から、公園という枠を飛び越え、遠くの山々へ連なる遠景まで、「借景」が楽しめます。その公園内は明確な仕切りゾーニング（領域区分）を行わずに、空間の役割を曖昧なまま残すことで、見る者の視線を伸びやかに解き放ちます。設計者の中村良夫氏は、「茶畑の向こうに富士が見え、築山に登れば浅間山の煙が地平にたなびいている。振り向けば筑波の嶺が木の間から顔を出す。」と現わしています。出典　中村良夫著「湿地転生の記 風景学の挑戦」岩波書店

④筑波見の丘から
見る筑波山の嶺

●12月の花と実のご紹介 ⑤サザンカ ⑥ヤブコウジ ⑦マユミ

④サザンカは、ツバキ科ツバキ目の冬に紅や白の花を咲かせる常緑樹です。
⑤ヤブコウジは、ツツジ科の常緑低木。赤い実と艶やかな葉が特徴で、正月飾りや庭木として親しまれます。
⑥マユミは、ニシキギ科の落葉小高木。秋に紅葉し、その後に淡紅色の実が裂けて種子が現れます、庭木に使われます。

⑤サザンカ

⑥ヤブコウジ

⑦マユミ

12 月の鳥【ジョウビタキ】

ジョウビタキはスズメ目ヒタキ科の小鳥で、体長は約 14 センチ。日本では冬に見られる渡り鳥（近年は日本で繁殖する例も有）で、特に都市部の公園や庭でよく観察されます。オスは顔が黒く、頭が白銀色、胸から尾にかけて橙色で、メスは淡い褐色です。縄張り意識が強く、「ヒッ、キッ」や「カッカッ」と鳴きます。この音が火打ち石を叩く音に似ていることから「火焚き」と呼ばれ、「ジョウ＝尉」には、男性の老人の意味があり、オスの銀色の頭に由来しているという説があります。

★ジョウビタキ
（オス）

★古河公方公園公式アカウントを開設しました！
是非みなさまフォローをよろしくお願いいたします。
・Instagram　　@koga_kubou
・X（旧 Twitter）　@kubou_park

インスタグラムアカウント

X（旧ツイッター）アカウント

【発行】(一財)古河市地域振興公社 古河公方公園(古河総合公園)　〒306-0041 茨城県古河市鴻巣399-1　電話0280-47-1129
○てくてく情報は公式ホームページからもダウンロードできます。古河公方公園　検索